第３回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
美術館の機能・役割に関するもの	県立美術館の役割は、県民の美術に対する意識の向上や、美術自体を楽しんでもらうことにある
	収蔵資料を活用し、栃木県だけに限定されない優れた芸術を紹介することが県立の美術館としての役割である
	芸術が生まれる過程を直に体験できると、芸術への興味がわくことから、芸術振興、芸術教育の普及の観点から有効である
	収集の経緯や事情もあるが、美術関係の作品は美術館に集約することも検討しても良いのでは
	県立美術館の開館当時からのコレクション収集の考え方・方針を考慮してほしい
	目玉となるような栃木県ゆかりの作品があると、市町立美術館でも作品を借用して展示できるのではないか
	博物館にある古美術品は美術館で扱った方が一般的には分かりやすいと思う
	大規模な公開制作を継続開催するのは難しいが、記念事業開催や期限付き開催として実施できると良い
図書館の機能・役割に関するもの	子どもが何かを調べるときに第一に図書館を使うような、情報拠点となる必要がある
	多くの方に利用いただくために図書館へ行く目的の多様化が重要。角川ミュージアムのような「魅せる図書館」「エンターテインメント性のある図書館」を検討してみては
	「資料的価値の高い図書を優先して」とあるが、県立図書館は網羅的に収集された図書資料を見ることができる数少ない場所なため、「幅広い資料を収集する」ことを強調できると良い
	「どこでも」という言葉は、県立図書館にとって重要なキーワード
	図書館は資料の提供だけでなく、提供した資料を使い、県民が新しい価値を生み出していく、地域文化の創造を支援する機関であるという視点もあると良い

第３回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
図書館の機能・役割に関するもの	図書館の強みは全ての分野と連携でき、全ての分野に関係する資料を収集・提供している点にあるため、そこを強調できると良い
	書庫にある古い書籍の多くはデジタル化されておらず、万一消失したら将来に残らないため、保存して残す方向にしてほしい
	新しい書籍の購入は、紙媒体での購入とデジタル化の2本立てで行えると良い
	資料的価値の高い図書等に限って収集し保存すると、多くの利用が見込まれる周辺の学生にとって敷居が高くなってしまうのではないか
	学校、教育機関との連携に関する視点が図書館の中にもあると良い。
	学校連携に関し、子どもたちが持つGIGAスクール端末を生かすため、図書館資料がデジタル化されていると学びが広がる
文書館の機能・役割に関するもの	多くの人が利用するわけではないものの、大きな価値を有する史料を保存する施設が文書館である
	市町レベルでは文書館の設置が少ないため、文書館が古文書・歴史公文書等の保存・利用のための県内のモデルやセンターを目指すと良い
	市町と連携し、民間に保存されている記録も残していく、あるいは将来世代に使ってもらうための働きかけが文書館の役割ではないか
	民間にある資料は一般的には現地で保存するが、県で保存する場合、史料の保管場所が、もともとの場所から遠くなる
	民間の文書を県立文書館に寄託する場合、保管場所が遠くなっても、現地からアクセスできるデータベースがあると良いのでは
	それぞれの市町で史料を保管することは困難であるが、市民は市町での保管を望んでいる
	各自治体で公文書が保存されているが、将来を考えると、県で保存してもらい、閲覧できるのが良いのでは

第３回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
連携した機能・役割に関するもの	各施設で収蔵している美術品や資料を生かし、連携、相互活用することが必要
	３施設や３つの機能が連携することで、人が来たいと思える魅力的な美術館になることが求められている
	一体的整備だからこそ実現できる、魅力的な施設にしてもらいたい
	各施設について「こういうことにも使える」、「こんな時に行っていい」などの使い方が知られるようになると良い
資料の保存・継承に関するもの	収集・保存は効率的に管理する必要があり、同じ建物内に保存するのでなく、保存するスペースを別建てすることも一案である
	収蔵について考えるにはちょうど良い時期であり、各施設が一体となって運営を検討していければ良い
利便性に関するもの	全世代が使える施設にする必要があり、誰もが参加できる仕組みや、誰もが自由に使える場所づくりが必要
類似施設との連携に関するもの	栃木県立博物館や宇都宮美術館など、類似・関連する施設との連携・差別化を検討することが重要である
	複数の施設が同時期に企画展を開催できれば、周遊促進の効果もあるのではないか
民間との連携に関するもの	規模が大きいため、施設の活性化のためには官民連携が必要であるので、PFIの導入には賛成である
	連携の観点からは、地域連携に基づいた農産物や観光などの発信も集客につながる
デジタルの利活用に関するもの（体験）	距離的、物理的な障害や読書に困難を持つ県民に向け、誰でも、いつでも、どこからでもアクセスできるように、デジタルの力を上手く使うことが、新たに求められる機能である
	美術館では、企画展自体をアーカイブとして残していけるため、積極的にデジタルを活用してもらいたい
	Google Earthのように、デジタル的に収蔵庫に行けて、どのような本かを見ることができるようなものがあると良い
	デジタル技術を用いることで、地理的距離を越え、年齢、言語、障害の有無にかかわらず、誰もが参加できる仕組みが作れる

第３回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
デジタルの利活用に関するもの（体験）	美術館の展示に関連する資料がどこの施設にあるか分かる端末の設置等、作品の貸し借りだけでなく、情報の連携ができるようなシステムを県内施設全体で整備できると良い。
	一度デジタル環境を整えて終わりではなく、デジタル計測ツールを用いて、使われている機能・使われていない機能を明確にして更新していくなど、デジタル機能を磨き上げてもらいたい
	美術館、図書館には、新たに求められる機能に「デジタル」の記載があり、文書館にはない。一方、文書館でも「史料情報にアクセスできる環境整備」と記載があるため、デジタルが活用されると思っている。
	高齢者はデジタル、パソコンを使いきれず、うまく見られない可能性があるため、アナログでの活動も必要である
県民参加に関するもの	山梨県や徳島県のように、県民の創造に関連した県独自の記念となる文学賞があると良い
建物（建築）に関するもの	50年先を見据えると、収蔵庫の継続的な増加などに臨機応変に対応する必要があるため、ゆとりを持たせた施設にしてほしい
	収蔵について、運搬することを考えると、同じ場所に作品倉庫を置くことが必要
建物（諸室）に関するもの	作家の活動にリアルタイムに触れられる公開制作室のような場所が、「生み出す、育む」の観点からも必要
	公開制作室のような場所は、若手作家の制作場所の確保等に資するものであり、来館者とも交流できるため、重要
	栃木県の各市町の文化や、観光スポット、産業や、温泉文化に目を向けてもらうために、例えば「百年厨房」のような100年先まで残る料理やコンセプトのレストランがほしい
	生徒たちの研修の場や、図書館関係の行事のためのスペースがあると、生徒たちが図書館に足を運ぶきっかけになる
	いろいろな方が講師をして学習会や発表会などの活動ができるスペースがあると良い

第３回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
管理運営に関するもの	３施設が公共施設を超えて数字を出すことができる施設にしたうえで、生産性を保つ必要がある
	デジタル発信に関する専門家などの人材の確保・増員を行い専門職員の業務と分業できると良い
	３施設が連携した機能の実現のために誰がけん引的立場となるか、今後議論があると良い
	３施設が連携するための仕組みとして、別の組織を作ることで、事業がより具体化され、活動もマンネリ化しないと考える
誘客・周遊促進に関するもの	早い段階から拠点が新たにできることを発信、アナウンスすることが必要
	栃木に行きたいと思わせ、来館したときに県内を周遊したいと思える施設にしてほしい
	各施設の機能を良くしたいと、人を集めたいという２つの意見を100%実現するのは難しいため、折り合いをつける必要がある
	2023年に栃木県の外国人宿泊者数はおそらく過去最高になっているため、それらを踏まえて魅力ある拠点を考える必要がある
	県民が見たい企画を作る企画力が重要。定期的にわくわくするような企画があると良い
	県美術館は海外有名画家の作品を展示する必要はないが、人を呼べる作品とそうでない作品の障壁を取り除く努力も必要
	多くの外国人観光客が訪れる日光とともに、拠点単体ではなく周辺のまちづくりと複合的に考え、日本のアートを知ってもらうことで、栃木県の施設が日本の芸術発展に影響を与えることができるのではないか
	現在の各施設の年間来館者数をどれだけ増やしたいかによってコンセプトやコンテンツの作り方が変わってくると思われるため、具体的な来館者の数値目標を示してもらいたい
	一番利用するのは周辺の地域の人たちであるため、周辺住民との連携が重要
	整備地周辺の住民や学校の学生等に利用してもらう視点が不足しているのではないか。遠方からの集客だけでなく、近隣の方が気軽に利用でき、各施設への関心を深めていく視点も必要。

第３回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
WSに関するもの	インバウンド需要を視野に入れる場合、実際に宇都宮市でまちづくりに関わっている方から意見を聞く機会があると良い
整備地へのアクセスに関するもの	車が使えない人など誰もがアクセスしやすい交通を整備してもらいたい
	バス、電車でアクセスするには時間がかかり、タクシーでは距離があり費用がかかってしまうため、アクセスの問題は考える必要がある
	共生社会の視点としても、交通アクセスへの配慮は必要である
その他	地震発生時の災害時や非常事態時にも使えるようにしてもらいたい
	防災拠点の考え方が取り入れられるか、防災拠点との役割分担があるかどうかを整理してもらいたい
	地震災害の可能性に鑑み、日頃から各地にある文書の所在を調査することが必要であり、そのために人材の確保が急務である
	拠点へのアクセス方法や各収蔵庫に係る経費、増員となる人件費などの数字を出す必要がある
	新施設整備の期間、既存の建物で利用が継続されるため、出来える工夫によりバリアフリー対応に努めて頂きたい